



「いつでも相談して」 24時間対応で 性暴力被害者を支える

かとう はるこ
加藤 治子さん

性暴力救援センター・大阪 SACHICO代表
阪南中央病院産婦人科医

心身を傷つけられた女性たちとの出会い

2010年春、大阪府松原市の阪南中央病院内に全国初である24時間対応の「性暴力救援センター・大阪」(通称SACHICO)が誕生した。女性の支援員が電話相談を受け、いつでも産婦人科医の診察を受けることができる。被害者が望めば弁護士やカウンセラーにつなぐことも可能だ。とことん被害者に寄り添う姿勢を打ち出したSACHICOを中心となって立ち上げたのが、産婦人科医の加藤治子さんだ。

医師を志した時、「女性の問題に取り組みたい」と産婦人科を選んだ。漠然とした考えだったが、実際に診察室を訪れる女性たちと向き合うと、がく然とすることが少なくなかった。レイプされた女性、夫に殴られた妊婦、父親から性虐待を受けた子ども。「女性に対する、特に性暴力が女性の心と体におよぼす影響がいかに大きいかを日常の臨床のなかで痛感してきました。」

2009年3月、定年を迎えると同時に一線から退き、同じ思いを共有する仲間とともに「女性の安全と医療支援ネット準備室」を立ち上げた。性暴力の被害者に何が必要かを議論するなかで、SACHICOの構想が練り上げられていく。35年の臨床経験のなかで形づくられた問題意識とネットワーク、そして性暴力への怒りが原動力だった。

「いつでも電話がつながる」ことが支援の始まり

性暴力は、それ自体はもちろんだが、被害にあった後にも被害者はさまざまに傷つく。「なぜついていったのか」「なぜもっと抵抗しなかったのか」「なぜお酒を飲んだのか」と警察や周囲に問われることも多い。被害者自身が自分を責めてしまうのも性暴力被害の大きな特徴だ。そのため、誰にも言えないまま苦しむ人が多い。妊娠しても病院へ行けず、中絶可能な時期を過ぎてしまっ^みて産まざるを得なくなった女性も診てきた。「だからこそ、いつでも電話がつながり、必要な

支援を提供できることにこだわりました」と加藤さんは話す。同和地区の診療所が原点である病院もセンターの意義を認め、積極的に協力してくれた。運営は寄付でまかない、ボランティアスタッフが4交代でシフトを組んで電話や来所の相談に応じる。女性を中心とした約20人の弁護士もボランティアで相談に乗ってくれている。そして加藤さんは医師仲間と協力しながら被害者の診察と治療にあたる。「あなたは決して悪くない。ここで安心して心と体を回復してほしい」という思いをこめながら。

一人で苦しんでいる人に支援を届けたい

電話相談は4月72件、5月43件、6月142件、7月134件。強制わいせつも含めたレイプ被害で診察を受けた人(性的虐待含む)は、4月11人、5月6人、6月10人、7月14人。うち10歳以下も含めた10代は過半数を占める。スタートした意味があったと思うと同時に、やりきれない気持ちもこみあげる。「中学生が集団でレイプするようなケースもあり、男の子たちがそうした性的行為の犯罪性を感じていない現実はとても深刻です。性暴力を防ぐには、女性の性も自分の性も大事にするという性教育、人権教育が何よりも必要だと思います」。

経済的にも人的にも運営は綱渡りだ。しかし、一人で苦しむ女性が今も必ずどこかにいる。その人にSACHICOの支援を届けたいという強い思いが加藤さんを支えている。

性暴力救援センター・大阪 SACHICO

大阪府松原市南新町3-3-28 阪南中央病院内
ホットライン

TEL : 072-330-0799(オンナキューキュー)

連絡・お問い合わせは

ウィメンズセンター大阪

TEL : 06-6632-7011